

第 24 回 (平成 29 年度)

千葉県建築文化賞表彰作品集



主催：千葉県 共催：一般社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

平成29年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第24回となる今年度は、81点の応募をいただき、千葉県建築文化賞検討会議による検討内容を踏まえ、最優秀賞1点、優秀賞5点及び入賞3点の合計9点を選定いたしました。

受賞作品は、新築の建物から既存ストックの有効活用と多岐にわたり、景観、環境、安全や快適性に配慮するなど、本県の建築文化の向上につながるもので、千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、次世代を担う子どもたちが誇れるような光り輝く千葉県へさらに飛躍するため、全力で取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、受賞者並びに応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさつといたします。

平成30年3月

目 次

千葉県建築文化賞について	1	東京クラシック森のクラブハウス・馬主クラブ棟	9
第24回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	一宮どろんこ保育園	9
トスラブ館山ルアーナ	3	ソーシャルレジデンス船橋	10
銚子商工信用組合本店	4	選考の基準	10
梅郷礼拝堂	5	千葉県建築文化賞検討会議	10
一棟貸し古民家の宿「まるがやつ」	6	千葉県建築文化賞の実績 (応募点数・受賞作品数)一覧	
菅澤武兵衛邸	7	受賞作品の位置	
富津リゾートセカンドハウス	8		

第24回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募81点から9点授賞

(選考経過)

千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

第24回千葉県建築文化賞は平成29年6月の検討会議で募集要領を定め、7月上旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数81点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物8点、住宅4点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の検討会議で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞1点、優秀賞5点、入賞3点を表彰候補作品として決定した。

多くのすぐれた作品を応募していただいた皆さまの熱意に、この場を借りて深く感謝したい。81作品はレベルの高いものが多く、今回も悩ましい選考となったが、その中で建築文化における社会性や公共性の意味が改めて議論になった。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		56	8	1	3	2
住宅		25	4	0	2	1
合計		81	12	1	5	3

(総評)

一般建築物の部への応募は56点で、学校、幼稚園・保育園・こども園の数が多かったが、今回は特に「その他」のジャンルに目を引く作品が見られた。

最優秀賞の「トスラブ館山ルアーナ」は、房総半島南端の丘に建つ保養所である。敷地の海側ラインに沿って2階建ての長い棟が曲線状に配置され、ロビーラウンジや客室から太平洋の大パノラマを望むことができ、麓からは照葉樹林の丘と一体になった軽やかな姿を眺めることができる。また、建設掘削土を利用し、2階からの避難動線とした中庭のマウンド、敷地の土を使った左官壁、高窓による自然換気など、随所に環境共生への配慮が見られる。

優秀賞の「銚子商工信用組合本店」は、銚子市中心市街地に建つ地元金融機関の本店である。各ファサードを2本の扁平柱で支え、コーナーをガラス壁とすることで、交差点の角地に透明感のあるシンボリックな姿を見せている。免震構造を採用し、地震・津波から地域住民を守る津波避難ビルの認定も受けている。地域再生の核となることが期待される建築である。

「梅郷礼拝堂」は、農地と林に囲まれた霊園の一角に建つ宗派不問の礼拝堂である。玉すだれ状の組柱によって支えられた大屋根が、曲線を描く凸型プランの空間を抱き込み、開放的なファサードが周囲の景観と視覚的な一体感を生みだしている。地域に対して開かれた寺院として、さまざまな催事にも活用されている。

「一棟貸し古民家の宿〈まるがやつ〉」は、築200年といわれる古民家を改修した宿泊施設である。構造躯体や建具は既存のものを活かしたうえで、水廻りや断熱性能を現代生活に合わせ、快適な宿として甦らせている。施工・運営に地元の力を導入し、プログラム面でも、古民家を後世に伝え、地域活性化につなげ得るモデルを提示している。

入賞の「一宮どろんこ保育園」は、公立保育園の民営化に伴って建てられた、保育所型認定こども園であり、芝生の園庭とそれをL字型に囲む木造園舎が広い回廊状の縁側を介して一体化している。「東京クラシック 森のクラブハウス・馬主クラブ棟」は、ゴルフクラブ付帯の2つの施設であり、スレンダーな柱とスラブによって構成される端正な森のクラブハウスと、草屋根をかけた温もりある馬主クラブが、森の風景に溶け込んでいる。

一般建築物の部

住宅の部の応募は25点であり、前回の46点を大きく下回ったが、多様なライフスタイルを反映した興味深い作品が見られた。

優秀賞の「菅澤武兵衛邸」は、築100年を超える古民家を自分の山の木を使って再生したものである。和室部分は木部を磨き、壁を漆喰として修復する一方、土間をLDKに改修し、思い出の空間を活かしつつ、快適な居住性を確保している。地場の材料と技術を用い、時間をかけて古民家を甦らせることで、地域の環境を含めた空き家問題の解決に一石を投じている。

「富津リゾートセカンドハウス」は、東京湾に面した敷地に建つリゾートハウスである。アウトドアリビングの中庭をコ字型に囲む中庭住宅であり、海と富士の眺め、波の音、汐風が、五感にゆったりとした時の流れを伝える。白い壁に包まれた建物だが、愛車の駐車スペースでもあるアプローチが海へと視線を誘い、表情を生みだしている。

入賞の「ソーシャルレジデンス船橋」は、築45年の社員寮を改修したシェアハウスであり、密集市街地の周辺スケールに配慮しつつ、多様な住まい方に快適な場を提供しようとしている。

住宅の部